研究計画書（継続）

注：研究課題が複数の場合、表紙は１枚でも、ここからのページはそれぞれの課題毎に作成のこと。

研究課題	岩手県立大学における英語教育プログラム改革 ― TOEIC (Bridge)による本学学生の英語力調査とその分析 高橋英也
研究期間	２０年度　～　２２年度（３年間）　※　２１年度　２年目

研究の目的

本研究の背景・目的・計画の詳細については初年度の研究計画書において述べているので、ここでは簡潔に要点のみをまとめることとする。まず最初に、本研究は、本学の英語教育に関わる検討事項として現在の中期計画に掲げられている次の３点、すなわち、（１）プレイスメントテストの妥当性の検証、（２）習熟度別クラスに応じた成績評価の検討、（３）習熟度別クラスのあり方の検討という観点に動機づけられているものである。本研究の目的は、現在の本学における英語教育の内容・成果・問題点を総括し、本学学生の英語学力の実態を正確に把握することを通して、今後本学が目指すべき実行可能かつ理想的な英語教育プログラムを提示することである。この目的を達成するために各研究段階に応じた目標が個別に掲げられる。第１に、本学学生の英語学力の背景にある「高校までの英語学習歴」、「(多様な専門分野に対応した）英語に対する多様な興味・関心の所在」、更には「(多様な入試選抜区分に対応した）入学時点での多様な英語学力」について、年２回のプレイスメントテストのスコアならびにその際に実施する質問紙調査の結果の精査を通して明らかにすることが目標とされる。第２に、本学の英語教育を支える４原則のうち最重要と言える「習熟度別クラス」を実現する上で鍵となる TOEIC Bridge（平成２０年度よりプレイスメントテストとして導入）の本学における有用性の検証ならびに TOEIC (Bridge)のスコアと実際の英語運用能力の相関関係の明示化を行うことが目標とされる。そして最終的に、上記の調査結果の分析・考察に基づいて本学が目指すべき英語教育の方向性の示唆と具体的な英語教育プログラムの提案を行うことが究極的な目標とされる。 各研究段階においては他大学の事例や共通教育関連の研究会から得られる情報を積極的に活用することとする。

２１年度は、２０年度に引き続きプレイスメントテスト実施時（４月と２月）に質問紙調査を行い、上述の第１の目標に到達することを目指す。特に、「入試選抜区分ごとの英語学力の多様化」と「高校から大学への学びの転換と大学初年次から専門課程への学びの転換」という視点でのデータの分析および考察を行い、その結果を学内外において発表することを目指す。また、TOEIC 対策・希望者対象団体受験などの課外英語学習支援についても２１年度後期をめどに開始し、本研究を側面から支えるデータ収集の手段として積極的に活用したい。

研究の計画

①研究の進捗状況

初年度である２０年度は２度のプレイスメントテスト実施時に行った質問紙調査の分析を中心に行った。まず４月実施の調査から、「２０年度入学生の学部・入試選抜区分ごとの学力の分布」や「いわゆる『ゆとり世代』の英語学習歴と英語学力の相関関係等の実態把握」を中心にデータ分析を行った。特筆すべき結論の一つは、多様な入試選抜制度が大きな学力格差を生み出していることが実際のデータにより予想通り証明されたことである。また、初年次の学生のイメージする（もしくは希望する）大学における英語教育は多様な専門にかかわらず一定の傾向が見られることも調査の結果から明らかになった。これらの点は、上記「研究の目的」の最後で述べた２１年度の研究の重要な基礎になるものと考えられる。入試制度や専門分野の多様性と大学における（共通教育としての）英語教育の問題を総合的に検討するにあたっては、高校教育・大学初年次教育・専門課程の（不）連続性に着目した「学びの転換」という視点が非常に重要であるとの認識から、現在、他大学におけるカリキュラムや教育実践事例等の情報収集を積極的に進めているところである。

②２１年度以降の研究計画

初年度の研究計画書で述べた研究計画は以下の７点に要約される。今後の研究の過程において（５）までの全調査が終了次第、（６）および（７）を最終年度である２２年度に行うことになる。したがって、そのスケジュールを勘案しながら各研究Ｇごとに個別の調査・研究を進めていくこととする。

プレイスメントテスト成績データ分析Ｇ：

（１）２０年度から２２年度の１，２年生を対象にしたTOEIC (Bridge)の成績推移の比較検討

プレイスメントテスト属性欄分析G:

（２）２０年度から２２年度新入生の学部別・入学選抜区分別・出身県別の英語学力調査

（３）TOEIC (Bridge)の成績と授業における学生の英語運用能力の関連性に関する調査

課外講座担当Ｇ：

（４）TOEIC対策講座の実施と受講者を対象とした学内TOEIC団体受験の実施、およびその成績推移の追跡調査

カリキュラム研究Ｇ：

（５）他大学におけるカリキュラム調査

（６）TOEICや共通教育関連の研究会での情報収集および発表

（７）他研究Ｇの成果を踏まえた新たな英語教育プログラム案の作成

このように本研究の根幹は複数年にわたる調査とデータの分析・考察から成るものであり、現在は２１年度に予定される調査・研究に向けて各研究Ｇごとに作業を進めている。